

別紙標準様式（第7条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	平成27年度 第3回環境影響評価審査会
開 催 日 時	平成27年11月9日（月） 18時00分から 20時20分まで
開 催 場 所	ラポールひらかた3階 研修室2
出 席 者	会 長：梅宮委員 副 会 長：東野委員 委 員：石井委員、今井委員、笠原委員、佐古委員、日置委員、松井委員、丸山委員
欠 席 者	伊丹委員、尾崎委員、村田委員、山本委員、柳原委員
案 件 名	GLP枚方Ⅲプロジェクトに係る環境影響評価準備書について（諮問）
提出された資料等の 名 称	・次第 ・資料1 諮問書（写） ・資料2 GLP枚方Ⅲプロジェクトに係る環境影響評価手続き ・資料3 GLP枚方Ⅲプロジェクトに係る環境影響評価準備書 ・資料4 GLP枚方Ⅲプロジェクトに係る環境影響評価準備書 資料編
決 定 事 項	・GLP枚方Ⅲプロジェクトに係る環境影響評価準備書については、部会（公害部会及び自然・社会・文化環境部会）を設置し審議する。 ・それぞれの部会長、部会委員を決定。
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表 の別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者 の 数	0
所管部署（事務局）	環境保全部 環境総務課

審 議 内 容

総括

【案件】G L P 枚方Ⅲプロジェクトに係る環境影響評価準備書について（諮問）

- ☐ 諮問を受け、今後準備書の内容について、審査会において公害部会、自然・社会・文化環境部会の2部会を設置して審議する。
- ☐ 各部の部会長、部会委員を指名し、決定。

質疑応答

【案件】G L P 枚方Ⅲプロジェクトに係る環境影響評価準備書について（諮問）

【事業者説明】

委 員：風害対策の植栽はどこの予定か。

事業者：基本的には、植栽は景観や沿道緑化を目的としており、風害対策用の配置は検討していない。植栽場所は敷地内の予定。

委 員：植栽による風害低減の計算があるのか。

事業者：今回は植栽の影響を入れて行っていない。

委 員：仮設沈砂池の性能について、通常は土壌の沈降速度から表面積負荷との比較により評価すると思うが、準備書では沈砂池の容積と滞留時間だけで予測を行ったのはなぜか。滞留時間とは別に、流量を表面積で割った指標で進めてはどうか。

事業者：指摘の手法も存在するが、今回はより精度の高い予測を行うため、現地の土壌を用いて濁水の発生量と沈砂池の容積から滞留時間を算出し、残留するSS濃度を予測した。表面積負荷の計算方法による評価については、検討する。

会 長：評価方法について検討していただくようお願いします。

委 員：低周波音の予測結果のグラフにおいて、現状値が心身に係る苦情に関する参照値を大きく超えている。この発生源を特定しているか。計画建築物が建った後、低周波を訴えられた際に、従前からの発生源として合理的な理由が説明できれば、事業者側としても安心だと思う。

事業者：調査し、次回データを示す。

委 員：土壌汚染の予測について、土地利用に起因する土壌汚染発生の可能性があるとしながら、評価では土壌汚染の影響はないとしたのはなぜか。

事業者：対象区域に工場や倉庫があったことから土壌汚染の可能性があるとしたが、土地の履歴調査後のヒアリングにより、特定有害物質等を取り扱っていた可能性が少ないものと考えられたため、最終的な評価を行った。図書の記載順序が不適切のため、評価書で修正する。

委 員：近隣の工場で油を利用している可能性はないか。もし土壌で問題が発生すると工事計画に影響がでることになるので、少しでも可能性があれば慎重に調査すべきと考える。

事業者：承知した。

委 員：工事の実施に伴う影響の予測では、建設機械のほかに工事用車両も含めているか。

事業者：場内を走行する工事用車両の影響も加味している。場外の道路を走る工事用車両につい

ては、別に道路・沿道での評価を行った。

委員：降下ばいじんの評価について、参考値を10t/km²/月としているが、評価に対して数値が少し過大なので、一般的な都市の降下ばいじんレベルなどを評価基準に検討してはどうか。
事業者：承知した。

委員：風害の予測範囲を、計画建築物の高さの2倍を範囲とした根拠を示してほしい。通常は10倍程度になる場合がある。

事業者：文献を参考にした。具体的には次回示す。

委員：風害予測結果の風速分布図では、建物高さの2倍以上の遠方まで大きく影響が出ることを示しており、広く考慮したほうがよい。また、風害の計算領域についての条件や範囲は、計算結果に影響があるので示したほうがよい。さらに、風害対策として沿道に植栽としているが、植栽方法によっては風が強くなることもあるので、具体的な植栽計画とそれによる風害の低減効果を示したほうがよい。

事業者：承知した。

委員：予測を行う際には、周囲の建物を省いて計算したほうが、風の影響がより強い結果が出るので、基本的には現状の周囲の建物を全て含んで計算してはどうか。

事業者：検討する。

委員：植栽について、計画地の南西に山田池公園が、北東側に緑地があるので、生きものにとっては間を繋ぐ飛び地があると非常によい。計画地内の南側の少しスペースがあるところなどを工夫すると、生き物が生息できるような価値を持たせた場所となるのではないかな。ネットワークを繋ぐという表現を加えたほうがよい。

事業者：承知した。植樹は、道路の沿道部分を考えている。

委員：計画では常緑広葉樹が主体となっているが、落葉広葉樹など様々な木を混種することで、虫害が減るなど管理の手間が軽減されると思われる。

事業者：参考にさせていただく。

委員：計画建築物の色彩は準備書記載の画像のとおりか。隣接マンションの住民から見て黒い側壁が目前にあると不快ではないか。

事業者：濃いグレーと薄いシルバーの色彩で計画しており、大きな側壁の面では階段を入れるなどの軽減を図っている。また、マンション住民方へは説明会以外にも情報発信をし、色彩については掲示しており、理解いただいている。

委員：廃棄物発生量の原単位について、類似施設の廃棄物排出量実績からどのような計算式を用いたのか記載したほうがよい。

事業者：承知した。

委員：廃棄物発生量は究極的には0を目指す必要があるもので、大阪府全体の発生量と比較するよりは、原単位で改善計画を立てるほうが妥当性がある。廃棄物の発生量は施設により大きく異なるので、コスト削減の意味も含め、管理指標にされてはどうか。また、難しいかもしれないが、交通安全の項目で、危機管理に関する内容があったほうがよい。計画地の周辺道路には、公共バスと共有するなど、事故発生時に波及リスクが高い道もある。

事業者：検討する。廃棄物については、入居するテナントごとにカテゴリが異なるため、何らかの方法を模索しているが、現状は非常に厳しいところである。

委 員：景観の評価の中で、屋外広告物を掲出する場合は協議するとあるが、具体的にはどのようなものを想定しているか。

事業者：壁面に、弊社のロゴマークと、入居したテナントのロゴマークの掲出を想定している。

委 員：事前に、近隣住民に見せることはできないのか。壁面や屋上など、具体的な数や社名が不明でも、ある程度の仮のイメージを示しておいたほうがよい。

事業者：賃貸施設のため、テナント部分については未確定となるが、検討する。

会 長：今後さらに準備書の詳細な内容については、公害部会と自然・社会・文化環境部会の2部会を設置して検討していくということで、よろしくお願いします。

事務局：本日の案件について、追加の意見、質問があれば11月16日の月曜日までに事務局まで連絡をよろしくお願いします。

会 長：以上で本日の会議を終了する。

以上